

## 歴史総合・世界史探究

全体的に、歴史総合、世界史探究の学習の遅れが目立つ結果となった。名大入試において難度が高いのは、350字から450字程度の「長文論述」であるが、基本的な「語句問題」ができていない受験者が極めて多かった。

名大入試は、当然ながら、全時代・全地域から、さまざまな問題が出題される。今後の模擬試験も同様であろう。したがって、基本問題でつまづいているようであれば、早急に教科書内容の習得に努めてもらいたい。

## 問題Ⅰ 〈パレスチナ問題と日本の高度経済成長〉

2025年度の名大入試において、「日本史探究」「世界史探究」の共通問題（手塚治虫の漫画『一輝まんだら』を参考に論述する問題）が出題されたため、本問もそれを踏襲した。手塚治虫の『アドルフに告ぐ』を題材に論述する問題であるが、指定語句（バルフォア宣言・イギリスの委任統治・パレスチナ分割案・シオニズム運動・高度経済成長）は教科書レベルであり、漫画も参考になることから、論述の方向性はかなり明確である。また、指定語句の最後に「高度経済成長」があることからわかるように、本問は「歴史総合」を意識した出題となっている。つまり、論述の際に、「パレスチナでの問題」が「日本の高度経済成長」にどのようにつながるのかという点を明確に示すことが求められる。

また、「長文論述」の練習の際に注意すべき点は、

- ・制限時間を設けた上での練習
- ・作成した答案を添削してもらう

という2点である。

試験時間90分の中で、問題Ⅰのような「長文論述」に充てられる時間は長くても30分程度であることから、「30分以内」という時間制限の中で練習し、独りよがりの答案にならないように、必ず添削してもらう必要がある。

その一方、本問の指定語句の中に、論述する上で使い方に迷う語句があった場合、「過去問」や「長文論述」の演習をするレベルには達していない。「共通テスト対策」も含め、「歴史総合」の教科書に戻った上での基礎固めが必要であろう。

## 問題Ⅱ 〈古代ユダヤ民族史〉

2025年度の名大入試においては、「ローマ帝国」「中国三大仏教石窟」など「古代」からの出題が多く見られた。ただし、例年は、古代から近現代まで幅広い時代に渡って出題されるため、偏りなく知識を定着させておきたい。

本問は、「古代ユダヤ民族」がテーマであるが、問3・問6の「説明問題」以外は、すべて教科書レベルの基本問題で、57点中29点分、つまり配点の半数以上を占める。したがって「説明問題」で失点したとしても、基本問題で確実に得点できていれば、この大問の得点率が半分を下回ることはないのです。失点

しないよう基本問題は確実に抑えておこう。

### 問題Ⅲ〈儒学に関わる中国史〉

本問は「儒学に関わる中国史」であるが、「説明問題」に関して、問題Ⅱも含めいくつか確認しておきたい。

まず、問題Ⅱは、問3・問6ともに「簡潔に説明しなさい」とある。どの程度を「簡潔」と考えるかは、解答欄の大きさから判断したい。他にも「～に着目しながら説明しなさい」「なぜなのか説明しなさい」など、「指示」はいろいろなパターンがあるが、こういった「指示」に従った答案作成を心掛けたい。

問題Ⅲは、問4が「焚書が行われた背景とその概要について、焚書を始皇帝に提案した人物の名をあげながら、80字以内で説明しなさい」、問6は「武帝が行った積極的な対外政策が中国にもたらした財政政策と、その頃起こっていた社会構造の変化について、80字以内で簡潔に説明しなさい」とあり、いずれも問題文そのものが、どのような説明をしたらよいか、その方向性を示している。つまり、問題文が答案作成の「ヒント」になっていると言える。

問題文の「指示」の見落としは、大きな失点につながる。普段の学習の段階から注意しておきたい。

### 問題Ⅳ〈ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化〉

『銃・病原菌・鉄』（ジャレド・ダイヤモンド著）の引用文からの出題である。形式としては珍しいが、2021年度に『中国史叙論』の引用文からの出題があった。ただし、引用文そのものを知っている必要はなく、問題文に合わせて、下線部分のみを抑えていく形で十分対処できる。

2025年度はなかったが、史料から「短めの」引用文を出題するパターンもある。こちらは、前述の「引用文」と異なり、それ相応の準備が必要である。

2024年度は、

- ・ジョン＝ヘイの回状電報
- ・キング牧師『自由への歩み』
- ・リンカン大統領の奴隷解放宣言
- ・ジェファソン大統領の教書
- ・ジョン＝オサリヴァン「併合論」
- ・ポツダム宣言

が出され、それぞれの史料についてだけでなく、これらを年代順に並べ替える問題も出題されている。つまり、教科書に載っている史料・資料は、最低限、内容を抑えておく必要があり、過去問でも練習を積んでおきたい。

## 【採点基準】

### 問題 I

- ① バルフォア宣言の時期が「第一次世界大戦中」であることが分かれば1点。  
※ ①で加点する場合④では加点しない。
- ② バルフォア宣言の内容・③の原因として、「イギリスがバルフォア宣言でシオニズム運動が目指すパレスチナでのユダヤ人国家建設を認めた」という内容が書けていれば8点（「バルフォア宣言の発表国」が1点、「バルフォア宣言の発表」が2点、「シオニズム運動の関与」が2点、「パレスチナでのユダヤ人国家建設の認可」が3点）。  
※ ⑧Ⅱの項目で「シオニズム運動の関与（2点）」を加点する場合、これを重複して加点しない（どちらか一方で加点）。
- ③ 「ユダヤ人がパレスチナに入植した」という内容が書けていれば、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用し最大4点。  
Ⅰ ②の結果、ユダヤ人のパレスチナ入植 4点（「ユダヤ人のパレスチナへの入植」が2点、「ユダヤ人とアラブ人の対立」が2点）。  
※ Ⅱとの違いは"入植が始まった"や"対立／緊張が始まった"が減点対象とならないこと  
Ⅱ ⑤・⑦・⑧の結果、ユダヤ人のパレスチナ入植 4点（「ユダヤ人のパレスチナへの入植」が2点、「ユダヤ人とアラブ人の対立」が2点）。
- ④ パレスチナ委任統治下の時期が「第一次世界大戦後」であることが分かれば1点。  
※ ④で加点する場合①では加点しない。
- ⑤ 「イギリスがパレスチナを委任統治した」という内容が書けていれば4点（「イギリス」が1点、「パレスチナ」が1点、「委任統治」が2点）。
- ⑥ パレスチナ分割決議の時期が「第二次世界大戦後」であることが分かれば1点。
- ⑦ パレスチナ分割案の決議とその目的として、「アラブとユダヤの対立を解消するために、国連はパレスチナ分割案を決議した」という内容が書けていれば4点（「アラブとユダヤの対立の解決のため」が2点、「国際連合によるパレスチナ分割案の決議」が2点）。
- ⑧ 「イスラエルが建国された」という内容が書けていれば、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用する（Ⅰが最大3点、Ⅱが最大5点）。  
Ⅰ ユダヤ人国家のイスラエル建国 3点（「イスラエルがユダヤ人国家である」が1点、「イスラエルの建国」が2点）。  
Ⅱ シオニズム運動が目指したユダヤ人国家のイスラエル建国 5点（「イスラエルがユダヤ人国家である」が1点、「イスラエルの建国」が2点、「シオニズム運動の関与」が2点）。  
※ ②でバルフォア宣言への「シオニズム運動の関与」で加点されず、⑧の項目でこれが記述されている場合に加点対象。
- ⑨ ⑧の結果として、「反発したアラブ諸国がイスラエルに侵攻して（第1次）中東戦争が始まった」という内容が書けていれば5点（「アラブ諸国の反発」が1点、「アラブ人がイスラエルに侵攻」が2点、「中東戦争」が2点）。
- ⑩ 第4次中東戦争の時期が「1973年」付近であることが分かれば1点。

- ⑪ 「第4次中東戦争でアラブ産油国がイスラエルを支持する（西欧）諸国に対して石油戦略をとった」という内容が書けていれば6点（「第4次中東戦争」が2点、「アラブ産油国」が1点、「イスラエルを支持する諸国」が1点、「石油戦略」が2点）。
- ⑫ ⑪の結果として、「第1次石油危機が起こった」という内容が書けていれば2点。
- ⑬ 石油危機の日本への経済的影響その1として、「原油の高騰により日本は物価高になった」という内容が書けていれば5点（「原油価格高騰」が2点、「原油価格高騰の日本への影響」が3点）。
- ⑭ 石油危機の日本への経済的影響その2として、「戦後初のマイナス成長を記録して高度経済成長が終わった」または、「高度経済成長から安定成長になった」という内容が書けていれば3点（「マイナス成長／安定成長」が2点、「⑪・⑫・⑬の結果、高度経済成長が終わる」が1点）。
- ⑮ 石油危機の日本への経済的影響その3として、「新しい産業政策（省資源型など）への転換が図られた」という内容が書けていれば3点（「新しい産業政策の具体例」が2点、「新しい産業政策への転換」が1点）。

※ 以下、①～⑤とは別枠で減点。

・指定語句の使用（下線引きを含む）が一つでも抜けているものがあれば2点減点。

## 問題II

- 問3 ① 異民族統治政策その1として、I「征服地を州に分け総督を派遣」またはII「駅伝制を整備した」という内容が書けていれば合計最大3点（I「征服地」が1点、「征服地の州分割」が1点、「総督の派遣」が1点。II「駅伝制の整備」が1点）。
- ② 異民族統治政策その2として、「服属民に重税を課し、強制移住させた」という内容が書けていれば3点（「対象（異民族）」が1点、「重税」が1点、「強制移住」が1点）。
- ③ 統治政策の性格として、「抑圧的」であったことが書けていれば2点。
- ④ 統治政策の結果その1として、「服属民の反乱が起こった」ことが書けていれば3点（「反乱の主体（異民族）」が1点、「反乱の勃発」が2点）。
- ⑤ 統治政策の結果その2として、「周辺諸国の攻撃で滅亡した」ことが書けていれば2点（「周辺諸国の攻撃」が1点、「アッシリアの滅亡」が1点）。
- 問6 ① 「フィリッポス2世がカイロネイアの戦いでアテネとテーベの連合軍を撃破した」という内容が書けていれば7点（「フィリッポス2世」が2点、「カイロネイアの戦い」が2点、「アテネ・テーベ」が2点、「アテネ・テーベ連合軍を撃破」が1点）。
- ② 「マケドニアを盟主として、スパルタを除く全ポリスが参加したコリントス同盟が結成された」という内容が書けていれば5点（「マケドニアを盟主」が1点、「コリントス同盟加盟国」が1点、「ポリスの表現」が1点、「コリントス同盟結成」が2点）。
- ③ 「ギリシア世界はマケドニアの支配下に入った」という内容が書けていれば、I・IIいずれかの高い方の点を採用する（Iが最大3点、IIが最大1点）。
- I （コリントス同盟結成の結果）、ギリシア世界の支配 3点。
- II （カイロネイアの戦いの結果）、ギリシア世界の支配 1点。

### 問題Ⅲ

- 問4 ① 焚書の背景として、「秦の中央集権的な政治に対し、儒家がくりかえし批判をした」という内容が書けていれば3点（「秦の政治」が1点、「秦の政治の性格」が1点、「儒家からの批判／儒家の排除」が1点）。
- ② 始皇帝への焚書の提案として、「法家の李斯の献策で」という内容が書けていれば3点（「法家」が1点、「李斯の提案」が2点）。
- ③ 焚書の内容として、「医学・農業・占い関係以外の民間の書物を焼き」という内容が書けていれば4点（「実用書以外」が2点、「民間／儒学」が1点、「書物を焼く」が1点）。
- ④ 焚書の目的として、「思想や言論を統制しようとした」という内容が書けていれば2点。

### 問6

- 論述 ① 財政政策の目的として、「軍費により窮乏した財政を再建する」という内容が書けていれば2点（「軍費のためであること」が1点、「財政再建」が1点）。
- ② 財政政策として、「塩・鉄・酒の専売や均輸・平準を実施した」という内容が書けていれば4点（「塩・鉄・酒の専売」「五銖銭の鑄造」「均輸・平準の実施」「増税」各2点で最大4点まで加点）。
- ③ 社会構造の変化その1として、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用し最大5点。
- Ⅰ 「小農民は重税により没落し、彼らを支配下におさめた豪族が台頭した」という内容が書けていれば5点（「農民の没落」が2点、「豪族の農民支配」が1点、「豪族の台頭」が2点）。
- Ⅱ 「郡国制から実質郡県制へと変化し」という内容が書けていれば5点（「郡国制から郡県制への変化」が4点、「実質／事実上の変化であること」が1点）。
- ④ 社会構造の変化その2として、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲいずれかの最も高い点を採用し最大2点。
- Ⅰ 「地方分権が進んだ」という内容が書けていれば2点。
- Ⅱ 「貧富の差が拡大し、社会不安が高まった」という内容が書けていれば2点。
- Ⅲ ③でⅡ「郡国制から実質郡県制へと変化し」を解答し、「中央集権的になった」ことが書けていれば2点。

### 問題Ⅳ

- 問3 ① フィリップ4世の目的として、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用し最大4点。
- Ⅰ 「(フィリップ4世は) 財政基盤の確立を通じて王権強化を目指した」という内容が書けていれば4点（「フィリップ4世」が2点、「財政基盤の確立・王権の強化」が2点）。
- Ⅱ 「(フィリップ4世は) イギリスに対する戦費調達のため」という内容が書けていれば4点（「フィリップ4世」が2点、「イギリスに対抗」が1点、「戦費調達」が1点）。
- ② 「(フィリップ4世は) 聖職者への課税を図ったが、これに教皇ボニファティウス8世が反対した」という内容が書けていれば7点（「対象（聖職者）」が1点、「聖職者への課税」が2点、「教皇」が1点、「ボニファティウス8世」が2点、「仏王と教皇との対立」が1点）。
- ※「聖職者課税問題」は「対象（聖職者）」と「聖職者への課税」を含むものとして3点。
- ③ 三部会召集の目的として、「国内世論を味方につけるため」という内容が書けていれば3点

〔国内（の人々／勢力）／各身分〕が2点, 〔国内支持の獲得希求〕が1点。